

第2回 名古屋港港湾脱炭素化推進協議会  
議事概要

1 日時

令和6年3月8日（金） 10:00～11:00

2 場所

名古屋港湾会館 第1会議室（Web 併用）

3 議事概要

名古屋港港湾脱炭素化推進計画（案）について

「名古屋港港湾脱炭素化推進計画（案）」を示し、CO<sub>2</sub>排出量の具体的な数値目標や港湾における脱炭素化の取組となる港湾脱炭素化促進事業等について協議した。

4 構成員等からの発言要旨

- 水素・アンモニアの需要推計の対象範囲については、需要が明確になった時点で見直すということか。
- CO<sub>2</sub>排出量については、取扱貨物量の増減も要因として考慮すべきではないか。
- ターミナル外の事業者として、CO<sub>2</sub>排出量をどうやって減らしていくかは非常に重要であると認識している。その中で、ターミナル外の脱炭素を支援する具体的な取組として、例えば、パイプライン網の構築、ポートアイランドの活用、大型アンモニア船の就航に向けての航路整備等が想定されると思うが如何か。
- 脱炭素化に向けた課題への対応策として、例えば、コスト面では国等の支援獲得に向けた要望が挙げられているが、より具体的な要望内容に踏み込んでいけるよう、今後の協議会でのフォローアップに期待する。
- 中部圏水素・アンモニア社会実装推進会議等と連携を密にしながら取組を進めていただきたい。

- 港湾法において、港湾脱炭素化推進計画の変更頻度は定められているのか。今後、新たな取組が出てきた段階で本計画へ位置付けたいと思っている。
- 将来予測がつきにくい中での計画策定であり、今後の状況に応じて柔軟に計画を変更していくことが大事である。また、計画と実態にずれが生じないよう、国、地域、事業者と情報共有する等、これまで以上に密に連携していくことをお願いしたい。
- 脱炭素化の取組は、短中期的には事業者のコスト負担の上昇が見込まれ、国、地域の支援が重要となる。
- 厳しい国際競争力を強いられている中で、名古屋港は投資しがいのある港であるので、様々な省庁から支援して頂けるよう要望していきたいと思っている。
- 名古屋港らしい脱炭素化の取組の一つにポートアイランドの活用がある。活用に向けて時間がかかるのは認識しているが、早期の検討をお願いしたい。
- 港湾脱炭素化促進事業の実施に当たり、港湾施設等の港湾計画の変更が伴うものについては、前広に情報共有、意見交換するようお願いしたい。
- 2030年に向けて時間の無い中、水素利活用やCCS等に係る脱炭素インフラ整備について地域全体として推進をお願いしたい。
- ブルーカーボン生態系等の活用とは、どのような取組を考えているのか。
- 環境性能に優れた船舶へのインセンティブについて、今後の具体的な導入計画はあるのか。
- 脱炭素化推進地区の活用について、規制の緩和、強化に留まらず、支援やインセンティブはあるか。

以上